



共通教育通信

KYOTO UNIVERSITY

vol.4
2005 SPRING



巻頭言

天動説・地動説と1905年

文Ⅱ 総合人間学部長
人間・環境学研究科長

富田 博之

1

自由の学風と教養教育

文Ⅱ 教養教育専門委員会委員長

子安 増生

2

授業紹介

「スポーツ実習」

文Ⅱ 高等教育研究開発推進センター教授

小田 伸午

3

「健康心理学」

文Ⅱ 医学部保健学科教授

菅 佐和子 他

6

「KUINEP 開発経済学」

文Ⅱ 留学生センター教授

森 純一

8

何のための「教養」?

文Ⅱ B群科目部会長

藤本 孝

10

京都大学教育交流会

プロジェクト・活動報告

文Ⅱ 学生実行委員(総合人間学部2回生) 吉安 亮介

13

吉田南構内でゆったりしよう

京大生協学生委員会

14

ローソン紹介

KULASSISで何ができるの?

「教養」考3

文Ⅱ 副機構長 林 哲介

17

巻頭言

天動説・地動説と1905年

総合人間学部長
人間・環境学研究科長

富田 博之

今年は、「世界物理年2005」と称して世界中で様々な物理教育イベントが行われる。20世紀に繁栄を誇った現代物理学が新しい世代から敬遠され、かげりが見え始めたことによる危機感から、巻きかえしを図ろうというユネスコの世界的な計画だ。昨年9月に、国立天文台が行ったアンケートによると小学生高学年の4割が天動説を信じていると報道され、理科教育の危機との関連で話題に

なった。案ずることはない。おそらく30年前でもアンケートを行えば大差のない結果だったと思う。地動説は社会的会話を経て多数に同化して定着する類の知識である。確かな科学知識として受け入れられるためには17世紀初頭のガリレイ当時の人々がもったのと同じ疑問に答える必要がある。まず、地球が太陽の周りを公転しているとする、地球の速さは毎秒30kmほどになるが、「それでも

私たちは平気で生活できるのよ」ということ(慣性の法則)を実感させなければならぬ。これは現代なら新幹線か航空機の中での体験を思い出させることでなんとか代行できよう。しかしながら、恒星の見える角度位置が春と秋で微妙に違う、となると小学校の授業ではとつてい無理である。深草にある京都市青少年科学センターには、入ってすぐの場所に吹き抜ける天井から吊された巨大な振り



大学院人間・環境学研究科教授

富田 博之 (とみた ひろゆき)

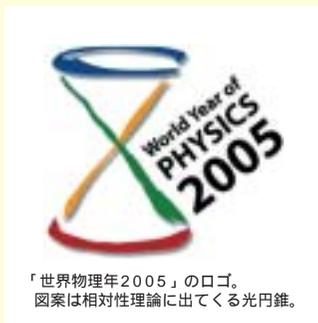
京都大学理学研究科修士 理学博士
専門は統計物理学
http://www.ip.media.kyoto-u.ac.jp/htomita/text.html
の中の『字と宙の話』を参照

がある。フーコー振子と呼ばれる地球の自転の証拠を示す重要な装置である。大学の力学であの悩ましいコリオリの力の例題として出てくるが要するに振子は慣性により（宇宙に對して）決まった鉛直面内で振動し、この間に床が地球の自転により回転するため振動面が取り残されていくことが、数時間かけて観察すれば目撃できる仕掛けである。北極で考えればわかりやすい。センターにはこれを手取り早く体験させるため、回転台とその上に据えつけられた振り子も用意されている。

床を宇宙空間、台を地球に見立て、回転する台に乗っかって振り子を振らせてみようというわけである。

センター見学のお決まりコースは別館のプラネタリウムである。市内では体験が難しくなった星空の魅惑に満ちていて、フーコー振子などよりよほど子供たちには人気がある。そもそもこういう感動を与える一方で天動説を信じるなどというのは酷な話だ。引率した先生は「それでも地球は回っている！」と叱りつけるよりほかはない。

さて、それでは地動説の行き着く先はどうなるのであろうか。地球を始めとする諸惑星の運動の中心にある太陽は静止しているのかと問われたら、そうだと答える人は少ないであろう。人類はいったん自分たちの



地球を客観的に認識できるようにすると太陽も然り、それなら太陽系の属する銀河が静止しているかということの宇宙には我々の銀河と同じような銀河が無数にあることからこれも恐らくそうではなからう。結局この宇宙空間に各銀河の位置を定める基準（絶対静止基準系）があつて、それに対して我々の銀河はある未知の速度で運動しており、あるいは銀河そのものも自転しているかもしれない、その中に位置する太陽系にあつて地球は太陽の周りを毎秒30kmの速度で公転しているにすぎない」と考えるようにならう。この宇宙の基準系に対して地球はどういう意味の速度で運動しているのか測定してみようと試みられたのが、19世紀から20世紀初頭にかけてであつた。

このためには宇宙空間をいろいろな方向に伝わる光の速さを測定すればよい。19世紀後半には電磁気学の完成によりすでに光はある一定の速さで空間を伝わる電磁波であると理解されていた。簡単に言えば、地球の（未知の）運動により光を追いかけながら測定することになるときと、すれ違いながら測定することになるときとで、見かけの上で光の速さに差があるはずというのが原理である。公転速度だけでなく光の速さの1万分の1はあるので、当時の最先端の技術を用い

ばこの差を検出することは十分可能であつた。そこで、この測定技術の開発で後にアメリカ人として初めてノーベル物理学賞を受賞した人物が自信満々で実験にとりかかった。しかしながら何度やっても地球の運動をいっこうに検出することができず、人類はいわば300年かけて天動説にもどり着いてしまったのである。

この絶対静止基準系の矛盾を解決したのが1905年、アインシュタインの特殊相対性理論である。彼は宇宙の最も基本的な法則である運動と電気磁気の法則が地動説であれ天動説であれどの立場でも同等な現れ方をするように、法則をではなく法則を認識するための時空の枠組みの方を変更することにより、絶対静止基準系を無用のものとした。これは、知性を得て以来永らく人類があたりまえのこととして受け入れてきた、宇宙全体を支配する普遍的（ユニバーサル）な時間という概念を覆す、大革命を伴うものであつた。そして、10年後の一般相対性理論に至つて今日の宇宙論、時空と物質の統一的理解の基礎ができあがつた。このため特殊相対性理論から100年目にあたる今年は、物理学にとつて記念すべき年にしようということになつたのである。

（参照） <http://www.wyp2005.jp/>

（58回国連総会決議）

自由の学風と教養教育

教養教育専門委員会委員長 子安 増生

新入生の皆さん、京都大学へのご入学おめでとうございます。

英語にジャーン(Jargon)という言葉があります。「ある特定の職業や団体などで用いられる専門用語、隠語」などを意味し、仲間うちでは説明なしに通用しますが、外から見たら「ちんぷんかんぷん」で訳の分からない言葉のことです。

おそらく皆さんが高校のときには聞かなかつたが大学に入ったとたんに耳にする「ジャーン」の一つに、「パンキョー」というものがあると思います。これは、「一般教育」の真ん中の「一般」をとっているようです。私たちが大学生の頃にはこんな言葉は使いませんでしたので、今の若者言葉の一つかも知れません。

京大をはじめかなり多くの大学では、一般教育のことを「全学共通科目」と呼んでいます。かつて教養部というものが置かれ、一～二年生の間は教養部で教養科目を学び、三年生になって学部に進んで専門科目を学ぶということが京大を含む多くの大学で行われていました。しかし、平成三年の大学設置基準の改正以後、教養部という組織が順次廃止され、京大でも平成五年から四年一貫教育(医学部は六年一貫教育)が行われるようになったという経緯があります。

こんな瑣末なことはともかく、皆さんは大学で高度な専門知識あるいは技能を身につけると同時に、広い視野に立つて物事を考えることのできる豊かな教養を啓発することが期待されています。そして京大は、自学自習を奨励する「自由の学風」を伝統としてきま

した。「強いて勉める」勉強ではなく、自分で問題を発見し、自分でその解を探索する研究(リサーチ)が期待されています。

京大に似た自由な雰囲気を持つ大学は、世界にも幾つかあります。私が在外研究員として都合一年間を過ごしたイギリスのオックスフォード大学もその一つです。ロンドンから電車で一時間の郊外にあるオックスフォードは、学問研究にふさわしい落ち着いた雰囲気には包まれた大学町です。実は、オックスフォード大学を含むイングランドの大学は、一部の学部を除くと四年制ではなく三年制であり、教養科目は少なく、専門科目を三年間かけて学ぶようになっていきます。しかし、教員と学生が一对一で学ぶチューター制度の伝統が今も根づいていて、オックスフォード大学とそこから派生したケンブリッジ大学の大きな特徴となっています。

京大が全国に先駆けて平成十年度より開始した新入生向け少人数セミナー(京大のジャーンでいうと「ポケゼミ」)は、教養科目においても教員と学生の緊密な関係の中で少人数の授業を展開したいという教員側の意欲のあらわれです。これはボランティア科目といって、原則として教員の通常の業務以外に進んで授業担当をするものです。教えることも学ぶことも、単なる義務になっただけで済ませたら、少しも面白くありません。皆さんが大学に入っておそらくすぐに耳にするであろうもう一つの学生言葉の「楽勝科目」は、学ぶことそれ自体でなく、単位をとることが自己目的化してしまっただけの

の果ての情けないジャーンです。自由の学風の理想と最も相容れない言葉の一つが、この「楽勝科目」です。

今、国立大学の授業料は決して安くありません。四年間の歳月も短いものではありません。新入生の皆さんに贈る言葉として私が毎年申し上げていることは、「卒業するときは元を取って出て行ってください」ということです。もちろん、それは楽勝科目で単位をかき集めることなどでないことは言うまでもありません。また、ただ京大卒の肩書きを得ることでありませぬ。一人一人が、自分の頭で元を取るとは何かを考え、それを実行していただきたいと思えます。そのことに応えるだけのものを持っているのが、この京都大学というところなのです。



教育学研究科 教授
子安 増生(こやす ますお) 1950年 京都市生まれ
専門は教育認知心理学

写真はニュージーランドオークランド大学の時計台前にて

スポーツ実習に「二軸動作」が新規開講

高等教育研究開発推進センター 教授 小田 伸午

速く走る、素早く相手をかわす、高く跳び上がる、速いボールを投げるなど、スポーツのパフォーマンスは、単に筋力を高めるだけでは効果は期待できない。筋肉や骨関節の成り立ちや二軸動作・なみあし(常歩)という体の動かし方を理解することがいかに重要か、イチロー選手やクレメンス投手、未續選手なども例にして解説しているのが、月曜3限に開講している全学共通科目授業「運動科学」である。

運動科学のメインテーマは、「スポーツ動作は、原理を頭で理解して、身体感覚で実践する」というものである。近年、運動科学の授業を受講した学生から、「二軸動作」というのが頭では分かったが、実際にやってみると難しい。二軸動作を体で覚える授業をやってくれたい」という要望が多く集まる。そこで、17年度から、金曜日2・3限の時間帯に、スポーツ実習(AiIB)のなかで、「二軸動作」という授業を新規開講することにした。

この授業は、次のようなことを思っている人にぜひ受講していただきたい。

- 1 立位(前屈とは、腰(腰椎)を曲げること)だと思っている人。
- 2 筋力を高めれば、全ての競技力が向上すると思っている人。
- 3 速く走るには、腿を高く上げ、足首で地面を強く蹴り、腕を前後に大きく振ることだと思っている人。
- 4 キックするときに、軸は立ち足にあると思っている人。球に立ち足を合わせると思っている人。
- 5 グローブを持って腕を引けば速い球が投げられると思っている人。
- 6 できるだけ速くに手を入れて水を力強く掻けば(引けば)速く泳げると思っている人。
- 7 相手に悟られずに素早く方向変換をしたい、打球の飛距離を伸ばしたいと思っている人。

1 静的安定

二軸動作とはどういうものか。この場を借りて、少し解説してみることにする。皆さんは、その場に片足で立つてくさいとされたら、どのように立つてしようか。どのようにして立つか、ということが、実は、二軸の走り方に関係する。図1の左の絵を見てほしい。人間が片足で地面に立つた状態を描いたものである。重心(おへそ)の真下に支持足を置いて、静的バランス(＝静的安定)をとって片足で立つ人が大半である。これは、止まった状態で安定して立つ立ち方である。普通の人なら、この状態で、左右方向に静的に安定して、ある一定時間なら止まって立っていられる。

毎回の着地をこのように静的バランスをとって走ろうとすると、1直線上を走ることになる。体の中心を立ち方では中心軸と言いが、このような立ち方ではおへそと支持足を結んだ線が中心軸と一致する。このような走りでは、肩と腰(骨盤)の回転方向が逆になって、体幹をねじるような動きになる。



高等教育研究開発推進センター 教授
人間・環境学博士
小田 伸午(おだ しんご)1954年、愛知県生まれ

1954年、愛知県生まれ。京都大学大学院人間・環境学研究科助教授を経て、2005年4月より京都大学高等教育研究開発推進センター教授。人間・環境学博士。

人間の身体運動やスポーツに関する運動制御機構を心理、生理、物理の各方面から総合的に研究している。

近年、全学共通科目「運動科学」のなかで、「二軸動作」というスポーツにおける新たなからだの動かし方を発表し、学内外の注目を浴びている。主な著書に『身体運動における右と左』(京都大学学術出版会)、『運動科学』(丸善)、『スポーツ選手なら知っておきたい「からだ」のこと』(大修館書店)などがある。

2 不安定だから動作が起きる

図1の真中のように、右の股関節の真下に支持足(右足)を置いて立つとしよう。このようにして立つと、一瞬しか立たない。左足を浮かせても、すぐに左足は下についてしまう。重心(おへそ)と支持足が左右にずれようとして、体は、向かって左に倒れようとして、宙に浮いた左足が自然に着地する。体が左に倒れようとするのは、地球が引く張つてくれるからである。すなわち、重力による作用である。

一瞬しか片足立ちできない不安定性を利用して走るのが二軸走である。動かないと安定しない走りと言える。あるいは、動くことによって安定する走りとも言える(＝動的安定)。この場合、左右の股

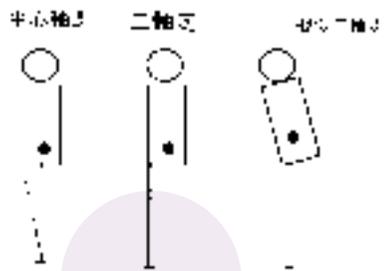


図1 静的安定の中心軸走と動的安定の二軸走 (図中の●は重心)

関節と支持足を結んだ線が軸(感覚)となる。左右に二つ軸感覚があるので、左右軸、あるいは二軸と言つ。

あくまで感覚的な話であるが、右足が着地したら、右軸を起点にして、重心(おへそ)は左にシフトしてゆく。空中に浮き上がってきた脚(遊脚)が着地に向かうときには、これから着地しようとする遊脚側に軸を感じる(軸の先取り感覚)。そして、左足が着地したら、着地した左脚側に一瞬軸が出来るが、重心(おへそ)は右にシフトしてゆく、このときには、宙に浮いた右脚が軸となる。この左右軸の素早い先取り感覚を「左右軸の切り換え」と言つ。最近、未續慎吾選手の走法(図2)で話題になった「なんば走り」も、二軸動作の一つである。

3 疑似二軸動作

図1の一番右の絵をご覧頂きたい。中心軸動作をしていた人が、左右軸を意識しだすと、このように、左右軸で静的に安定して立とうとするが、そのときの立ち方を示したものである。左右軸でどつぶり安定して止まって立っている。中心軸動作でつちがった静的安定を求めると

せがここでも顔を出している。このような動きは二軸動作ではなく、「疑似二軸動作」と言つ。やじるべえのように体幹が傾いてしまうのが、疑似二軸動作である。本当の二軸走は、体幹が左右に傾かず、まっすぐに立っている。

4 遊脚が軸

図3は、女子マラソンの高橋尚子選手と市橋有里選手のシドニー五輪でのレース中の写真である。両者とも、右足がいまや離れせんとするほぼ同じ局面で写っている。高橋選手は、体幹がまっすぐ立っていて、支持脚側の骨盤が高い。スムーズに左足(遊脚)が着地する体勢になっている。つまり左右軸の切り換えがスムーズに行われていることが分かる。一方、市橋選手は、体幹が右側に傾き、遊脚側の骨盤が高くなっている。高橋選手は、この時点では、軸は遊脚にあるが、市橋選手の場合、軸はまだ支持脚にある。

5 蹴り足が軸

左右軸の素早い切り換えということに関して、サッカーのキック動作でも当てはまる。二軸感覚でサッカーの世界のトップ選手の蹴り方をみてみると、「蹴り足をボールに合わせる」感覚で蹴っているという言い方が出来る。これは、高橋尚子選手の遊脚が軸ということと同じで、着地寸前の軸足で蹴る、という動作感覚のことを言っている。地面がぬかるんでいると、試合中のインサイド・インフロンティックやPK戦のキックなどで、日本選手は外国の選手に比べて、足を取られるケースが目立つ。これも、軸足で安定して立とうという感覚が原因だと思われる。



図2 なんば走りも二軸走法のひとつである(未續選手)。

意識としてはボールが動いている局面のキックでは、「ボールに立ち足を合わせていく」のではなく、「蹴り足をボールに合わせる」必要がある。蹴るといふ動作において大事なものは立ち足ではなく蹴り足とボールの関係なのである。立ち足にいつまでも重心がかかっている状態では二軸キックはできない。蹴り足に重心を乗せながらキックし、接地したときにはその足が軸足となるような動きが必要となるのである。

図4は、インサイドキックの二軸動作と中心軸動作を前から写した写真である。違いは一目瞭然である。中心軸動作では助走のスピードを立ち足で吸収した後に静的な安定を維持しながら蹴っている(下段)。ボールを蹴った後の体勢をみればそのことがよくわかる。立ち足を基点として前に蹴り脚を振り出したときのバランスを保つために、上体を後に倒している。

二軸動作はこうではない。「走りながら蹴る」という意識があるため、上体は傾くことなく蹴り足に重心を移しながら蹴ることができるのだ(上段)。中心軸動作は、外旋(外側に足先・膝先を向ける動き)させた足をそのまま押し出すように蹴っているが、二軸インサイドキック

「スポーツ実習」

クは、外旋させた股関節を、内旋させながら（足先・膝先を内側に向けながら）蹴っている。前に走ってきた勢いを殺さずに蹴るこの蹴り方だと、インサイドでも、長くて速いパスが蹴れる。

ボールを蹴った後の動き出しについても中心軸動作と二軸動作では大きな違いがある。蹴り足と上体でバランスをとる中心軸動作では、いったん後方に倒した上体を起こし、蹴り足を重心の下に引き戻した後でなければ次の動作に移れないが、二軸動作では蹴り足をそのまま前に接地することで次の動作への第一歩とすることが出来る。この動きだと、キックの後の動きが格段にスムーズになる。

6 感覚が変われば 考え方、教え方も 変わる

中心軸動作の感覚からすれば、走っているときの軸は、体重を支えている脚である。しかし、二軸動作の感覚からすれば、軸は空中にある遊脚にある、ということになるのだ。サッカーのキックにおいても、二軸感覚だと、ボールを蹴る脚が軸であり、中心軸感覚だと、立ち脚が



図3 シドニー五輪(2000)の女子マラソンにおける高橋尚子選手(右)と市橋有里選手(左)

軸ということになってしまふ。感覚が変われば、動作の考え方が反対になつてしまふ。

左右軸の切り換えについて、走り方と、サッカーのキック動作を例にあげて考えてみたが、左右軸の切り換えは、各種スポーツのさまざまな動作に応用することが出来る。

授業では、走歩行動作、投げ動作、打つ動作、方向転換動作、二軸動作遂行のための筋力トレーニングなどを吉田グラウンド、体育館で実技講習を行う。サッカーのキックの軸の切り換えから、野球の投げの軸が後足にはなく、前足・前の肩にあることがみえてくる。イチロー選手の盗塁のスタートの二軸動作を学ぶことで、バスケット、サッカー、球技の横方向へのスタートが見えてくる。このように二軸動作の良いところは、いろいろなスポーツ種目の動作からヒントを得てゆくことで、二軸動作の本質が見えてくることである。

各自の動作の長所、短所をビデオ画像、地面版力計などのスポーツ科学のデータ解析を使いながら客観的に把握し、実践における感覚との対応をみながら授業を

参考図書

- (1) 小田伸午 身体運動における右と左 (京都大学学術出版会) 1998
- (2) 小田伸午 運動科学 アスリートのサイエンス (丸善) 2003
- (3) 小田伸午 スポーツ選手なら知っておきたい「からだ」のこと (大修館書店) 2005

<http://www.naniashi.com/hinokan/>

進めることも、本授業の売り!の一つである。随時、二軸動作に関心を持つ一流選手やコーチなどの達人をお招きして、一緒に実習をしながら、指導を受けることも予定している。二軸動作、なみあし(常歩)に関するホームページを立ち上げているので、興味のある方は是非ご覧ください。

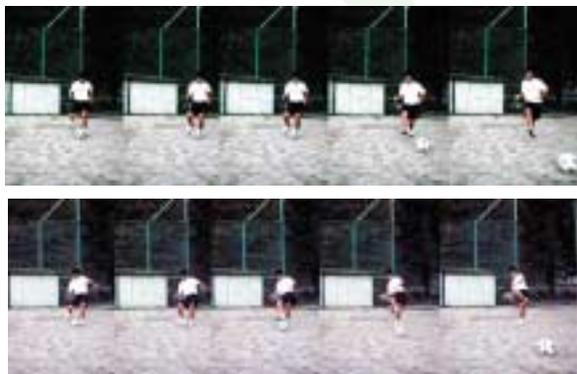


図4 上段が二軸インサイドキック、下段が中心軸インサイドキック

健康心理学

医学部保健学科とは、

どんなところ？

私たちの所属する保健学科は、「健康科学」の探求を旗印に、新しく誕生したばかりの学科です。具体的には、看護学専攻・検査技術学専攻・理学療法士専攻・作業療法学専攻の4部門から成り立ち卒業時には、それぞれ国家試験の受験資格を得ることができます。カリキュラムの中で、臨床実習の占めるウエイトはきわめて高く、理論だけでなく実践重視の京大のなかではいささか珍しい(?)。「実学」志向の学科であるといえます。そのため、教員も、大半が豊富な臨床経験をもち、それを踏まえつつ学生の教育に当たっています。

そんな保健学科の旗印は「健康科学」であり、「人間の心と身体の健康づくりのために、自然科学と人文社会科学の垣根を取り払い、統合的な立場から探求することを目指しています。いずれは、学科名も「健康科学科」に変更したいと望んでいるのです。

そんな保健学科が、他学部・他学科生の皆さんにも私たちの専門領域に是非親しんでいただきたいと思って開講した全学共通科目のひとつが、この「健康心理学」なのです。

「健康心理学」とは

「健康心理学」とは、読んで字のごとく、個人と社会の健康の維持・増進・疾病の予防と治療などについて、心理学の立場から貢献しようという新しい学問領域です。心理学の諸領域の中でも新しい応用分野ですので、「昔から健康心理学を専攻してきた」と言う人は、多分まだいないはずですが、最近とみに注目を集めるようになってきた分野です。

さて、リレー形式で授業を担当する私たち3人は、それぞれ、専門を異にしています。ただ、3人の共通点は、これまで、精神科領域で実践にたずさわってきたということ です。

担当教員の自己紹介と 講義のポイント

最初に授業を担当する菅の専攻は「臨床心理学」、いわゆるカウンセラーです。本学の教育学部を卒業、保健学科唯一の人文科学系の教員です。教壇に立つずっと以前からカウンセラーとしており、現在でも、京大病院の精神科や「女性のこころとからだの相談室」などで、カウンセリングを続けています。学生さんから職業的アイデンティ

医学部保健学科	教授	菅	佐和子
医学部保健学科	教授	十一	元三
医学部保健学科	教授	櫻庭	繁

ティーを問われたときには、「教師が片手間にカウンセリングもしているのではなく、カウンセラーが、臨床現場で得た知見を後進に伝えるべく教壇に立っている」と答えることにしています。この授業では、「ストレスに負けない自分づくり」、「自分の「性格」を理解するために」、「ライフサイクルと発達課題」などについて講義をしています。時代が変わり、自然科学がどのように進歩しても、人間のこころの悩み、苦しみは昔からそれほど変わらないので、性格や対人関係の問題は、不変のテーマだと思っています。十一が担当する領域は精神医学です。





ためにも児童青年精神医学は欠かすことのできない専門分野です。講義ではまず広大なメンタルヘルスの領域をいくつかの大きな分野に分け、関連する職種とともに概説します。次に、「こころ」の問題と「脳」の問題との相互関係や両者の区別の重要性について説明し、簡潔な症例呈示を通じて実践的なメンタルヘルスの基礎知識を提供したいと考えています。

最後に、櫻庭の思いをつづります。

その中でも特に児童青年精神医学を中心に据えて、診療発達・適応・教育支援、認知機能の研究を行っています。健康心理学はメンタルヘルスの一領域と言えますが、いわゆる精神障害とは別に、発達上特殊な資質・個性を持つ人達は多く、その人達も含めたメンタルヘルスにおいて児童精神医学が重要となってきました。また、近年の事件も含めた現代の少年問題を考えるうえで、時代や社会背景とともに、それぞれの若者に独自の資質を踏まえる必要がありますが、その

良い大学に入ると言うことで将来を約束された多くの人は考えがちです。つまり、将来を約束されたルートにのつたなどと思い、将来を約束されたと思うのは多くの秀才といわれる凡人が陥るそれは大変おこがましいことなのです。そうした平凡さ堅実さの中に幸を見い出すことは悪いことではありません。しかし例えば、音楽を学ぶ人が知識や技術、テクニクを身に付け、楽譜の譜面通り演奏できてもそれは、人の心をゆさぶる名演奏にはなりません。その譜面の意味しているものを譜面の間から読み取る才能がなければ多くの人を魅了する演奏にはなりません。さらに名作とされている文学作品や音楽や絵画で万人を引き寄せているのは才能以上の狂気にも似た才能があるからです。太宰治や坂口安吾、チャリパーカ、バド・パウエル、ゴッホ、ムンク等はその狂気を似て凡人の心の琴線に触れさせてくれるからこそ多くの人の心を魅了してやまないのです。狂気という資質は誰でももっているものですが、それを文学として、芸術として、狂気の本質に近づくことができる者が天才です。今日情報社会の中では多くの天才の作品から狂気を知ることができますが、天才を見つけるのは大変です。そこで、私は是非言いたいこの授業の中から、「諸君脱帽したまえ、ここに天才がいる」と感嘆させる学生が出ることを！

このような3人の連携ブレイ(?)をどうぞよろしくお願いいたします。

医学部保健学科・看護学専攻 教授

菅 佐和子(すが さわこ)1949年 大阪府生まれ

専門は臨床心理学。趣味は猫と遊ぶこと、小説を読むこと。

医学部保健学科・作業療法学専攻 教授

十一 元三(といち もとみ)1957年 三重県生まれ

専門は精神医学、認知神経科学。趣味は音楽を聴くこと。

医学部保健学科・看護学専攻 教授

櫻庭 繁(さくらば げん)1947年 茨城県生まれ

専門は精神看護学・精神保健。趣味はオーディオ、カメラ、鉄道模型、古本。



「ワー 英語でなんて言うか分からない」

業
介
紹

KUINEP 授業に参加しよう!

KUINEP 開発経済学

I think that...

KUINEP 授業の前の、私の研究室をのぞいてみましょう。今日の研究室では海外からの KUINEP 学生 3 人と日本人学生 2 人が議論しています。来週の授業の発表テーマ中国の教育改革について議論をしています。もちろんすべて英語での議論です。そう、KUINEP は英語を使う講義なんです。多くの日本人の学生は英語での生きた議論に顔色が変わります。

「I think that...
(後が出ない、しばし静寂、冷や汗)」



(発表前の打ち合わせ...時間が迫る)

京都大学の国際化と KUINEP

(Kyoto University International Education Program)

ここで KUINEP の沿革を説明しましょう。京都大学では多くの国際交流活動が行われています。多くの先生方が研究活動のため頻繁に海外に行かれています。また逆に海外から多くの研究者や留学生も来ています。現在、海外からの留学生は約 1300 人です。ところが、京都大学から海外へ留学している学生は 200 人にしかなりません。京都大学はこの状況を打破し、少しでも多くの学生に若いときに海外で勉強してもらいたいと考えています。学部生に留学生と机を並べる場を提供し、国際的視野を身につけ、留学への関心を高める重要な役割をはたすのが KUINEP なのです。

京都大学は海外の大学と学生交流協定を結んでいます。この交流の一貫として、京都大学へ留学してきた諸外国の学生たちが勉強できるようにする必要があります。そこで京都大学 100 周年を機に始まったのが、英語による KUINEP 授業なのです。受講生は KUINEP 学生が中心ですが、日本人学生にも全学共通科目として提供されており、2003 年度には延べ 500 人以上が参加しました。

留学生センター 教授 森 純一



(パワーポイントのデザインも色々です)

開発経済論の英語講義

私は KUINEP 英語講義で開発経済を取り上げています。発展途上国の現状や今後の成長のための条件、その裏付けとなっている成長理論などを英語で講義し、学生たちと議論をします。この講義に参加することは、決して簡単ではありません。英語での講義を聴き、レポートを書くためには、英語で

の文献をたくさん読まねばなりません。学生の半分がKUINEP学生で、残りの半分が日本人学生です。参加している日本人学生たちは、悪戦苦闘しながらも、このチャレンジングな講義を楽しみ、人気がある授業となっていていま。京大生は好奇心旺盛なんですね。

「僕、初めて英語で話します」

KUINEPの授業では出来るだけ、日本人学生とKUINEP学生のコ

ミュニケーションが出来る機会を作ることを心がけています。多くの日本人学生にとっては、この授業が英語で議論する初めての機会です。でも、やがて、英語で自分の意見をまとめあげ、発表することができるようになります。いやでも英語でしゃべらざるをえません。「I am sorry. 僕、初めて英語で話します。」と、先ずは誰もが片言で始めます。でもこの勇気が大事なんですよ。

何を学べるのでしょうか

KUINEPには現在約20の科目があります。文系・理系いろいろな科目が並んでいます。英語講義をやつてくださる先生方のおかげでKUINEPは成り立っています。これらの講義を通じて、単に日常会話に留まらず、専門用語を学ぶことができます。それらの知識は皆さんの将来の研究に、大いに役立つでしょう。

私は英語での議論は稚拙で良いと思います。まず自分を表現しようと努力する。KUINEPの学生たちは日本に興味を持ってやってきた学生たちです。彼らは日本人学生とのコンタクトを希望しています。だから片言

の英語でも、話そうと努力すること、これが大事なのです。

君もチャレンジしよう

私は昨年(2007年)の3月までビジネスの世界にいました。ニューヨークやフランクフルトで金融取引に従事した後、アジアを中心とする金融調査を行いました。31年間の実業界での経験から、英語でのコミュニケーションの重要性は身にしみています。

京大生と出会うって感じるのは大変なボテンシャリティを持っているということです。でも「玉磨かざれば光なし」です。皆さんは将来の日本のリーダーとなることが求められています。その人たちには英語を使えることが、当然のこととして求められます。ぜひKUINEP授業を受講して、あなたも「I think that...」と汗を流してくださいね。



(面白いと笑いもこぼれて)



留学生センター 教授
森 純 (もりじゅんいち) 1951年 出身:東京

専門:国際金融、開発経済
趣味:水彩画、デジタルなもの

何のための「教養」?

B群科目部会長 藤本 孝

皆さんは次の質問に
どう答えますか?

「民主主義は人間の平等を基礎として
いる。どういう意味において人間
は平等なのか?」

現実には人間は文字通りの平等に
ないことは誰でも認めるでしょう。

それではこの考えは理想の状態を表す
いわば「理念」でしょうか。多くの
日本人は結局のところ「価値の平等」
と考えます。「天はひとの上にひと
を造らず、ひとの下にひとを造らず。」
人間だれでも同じ価値を持っている
したがって同じだけ尊重されなくて
はならない、というわけです。それ
はそれで立派な理想ではありません。

何年前か前、フランス人に同じ質問
をしたことがあります。フランスは「自
由・平等・友愛」の本来本元ですよ、
私は彼が「よい質問だけど・・・」
と言っただけでよく考えるか、と思っ
ていたら、たちどころに返事が返っ
てきました。「法の下における平等
である」というものでした。

この例は、自分の存在自体が自分
がその中にいるcivilizationにとても強
く規定されている、ということを示
しています。

私はときどき、卒業アルバムへ寄稿
を求められます。そのとき書くのに
こんなのがあります。

知的な人間として
生きるための5つの条件

1 高い志を持つ

(まず必要なことです。なにこと
かに対したとき、例えば自分の損
得が頭に浮かぶようではいけない)

2

自由で柔軟な思考をし、高い
創造性を持つ

(あたりまえと言えばあたりまえ
ですが、でもちょっと難しい)

3

理想を持ち、年齢にかかわら
ず成長しつづける

(これは結構難しい。40・50歳で成
長を止めてしまう人はたくさん
います。理想など青二才が持つも
のだ、というわけです)

4

世界を局所的ではなく全体と
して見るができる

(最近の、拉致事件を例に取りま
す。たったここ百年のスペインで考
えても日本は朝鮮半島から見る
かにたくさんの人たちを拉致し
ましたよね。もっと昔には秀吉の
例もあることだし)

5

歴史の文脈の中に自己を位置
付け、それによって自己を相
対化することができる

(最初に挙げた例はこの項目に関



工学研究科・機械物理工学専攻
藤本 孝 (ふじもと たかし) 1942年1月8日生 出身:広島

専門: プラズマ分光学、プラズマ原子過程
趣味: クラシック音楽(聴くだけ)、近代科学の成立と発展など
ということにも若干の関心を持っている

連します。つまり、日本で生まれ
育った皆さんは日本というある
ひとつの文明と歴史の中で作られ
たのだということ、そのために皆
さんの人間としてのありようはそ
のままでは全人類共通 普遍的
ではないということ。(フランス
人は普遍的、と言っているわけ
はありません。念のために。) 皆さ
んはそれを相対化しなくてはなら
ない)

「教養教育」とは

それでは、皆さんが将来、右のよう
な生き方を実現しようとするとき、
そのための基盤はどのようになら
得られるのでしょうか。それがまさ
に「教養」なのです。大学における「教
養教育」は全体として皆さんが知的
な人間として成長することを目標と

しています。

皆さんがもし「現実の『教養教育』ではちっともそんなことを教えてくれない」と言ったらとすると、それは考えが浅いのです。たとえば、「自由で柔軟な思考をしなければ」と言われても何の効果もありませんよ。そうではなくて、個々のものごとを深く追究する具体的なプロセスの中で、それをいわば「材料」として、徐々にそういった姿勢を身に付けてゆくというのが教養教育（あるていど専門でもそうですが）の方法論なのです。「教育とは教えられた個々のことをすべて忘れ去った後に残るもの（アイコンシユタイン）」なのです。

「役に立つ」教養教育

これから先は文系の皆さんを念頭に置きます。自然科学系の教養教育に焦点をします。ここでは教養教育の本来の目的とはべつに、「直接に役に立つ」という側面に目を向けます。

現代は科学・技術とよばれる現実がすごい勢いで進んでおり、身の回りに最新の技術の成果が次から次に現れてきます。ITと呼ばれる情報関連（ケータイはその一例）のさまざまなこと、移植医療と脳死、遺伝子操作などなど。技術ではないけど新しい伝染病もありますね。今からまだまだ新顔が出てくるでしょう。そのようなものにどう対処するか。それから目をそむけたり、逆に八



ニツクに陥ったりするわけにはゆきません。このような新たな事態にも合理的、理性的な対応が出来なくてはいけません。何ごとかについて「すべて」か「ゼロ」かと安易に情緒的見方に陥ってしまうのではなく、踏みとどまって「どの程度に」と量的にとらえることも「理性的」ということばに含まれます。そのためには科学についてある程度の「センス」を持つている必要があります。この「科学のセンス」を身に付けるのも「教養教育」なのです。

それとともに、またはそれより、皆さんは将来、職業人、企業人、行政官、法律家などなど、として、責任ある立場に立ち、そこでは直接目の前にある現実や皆さんの組織が進むべき方向について何らかの決断を迫られます。科学や技術が今よりもさらに進んだ世界です。そのとき皆

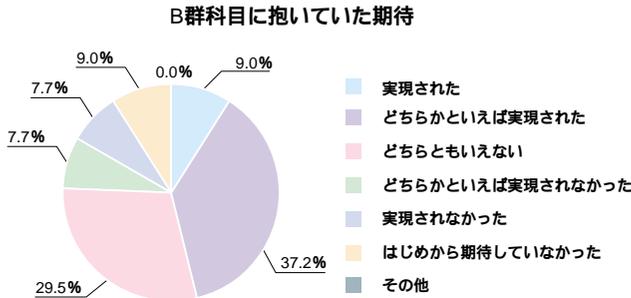
さんが科学音痴であったとしたらどのようなことになるでしょう。自分が科学音痴であることを最初から認めて、誰かに判断をゆだねる。これは現実には広く行われている。というのがひとつの解決法です。でもそれでいいんでしょうか。たとえば、ある方向を出した委員会は解散してしまえば消滅します。その判断の「責任」はどこに行くのでしょうか。将来について確実なことは誰にもわからないのですが、さきに述べた科学の「センス」によって将来をおおざっぱにでも予測して進路の決断をし、その責任は自分で負う、というのが皆さんがすべきことでしょう。

研究者になるひともいますよね。「研究」とは創造的な営みです。知の世界の中に今までだれも思いもしなかった新たな領域、たとえそれが小さなものであっても、を生み出してゆかなくてはなりません。そのとき、自分のありようが生み出されてきます。日本では昔から狭い専門に深く通ずること（擲掄的にタコツボと言われます）がよしとされ、「専門バカ」が誉めことばでさえありました。そのような研究者のありかたも例外的にはあり得るかもしれませんが、普通はそうではありません。どれだけ広い世界から材料を調達できるか、それらをどのように組み合わせるか、新しい「枠組み」を構築してゆけるか。このとき、皆さんが自分の直接の専門からはるかに離れた何かある分野にも通じていたとすると、その事実だけでも他の人が持ち得ないインス

ピレージョンのみなもととなりませす。それがどんなに有利なことが。専門の勉強は言つまでもなく大切ですが、皆さんにとつてそれだけでは充分ではない。このように「皆さんの「知的領域」を広げること」も「教養教育」の目的なのです。

「教養教育」アンケート

1年ほど前に、当時の1年生が1年間の教育を終えた時点でアンケート調査



をしました。その趣旨は、右に述べたような意味で、文系学部の人たちに本学の教養教育の今の場合B群科目ですが、がどのように受け止められているのかを知るためでした。昨年10月に報告書「文・理の壁を超えるために」が出版しました。ホームページ (<http://www.z.kyoto-u.ac.jp/>)の「点検・評価」のページ)に掲載してあるのでご覧ください。結果は一言で言えば「問題山積」です。「B群科目に抱いていた期待が実現された」との回答が半数を切った(上図参照)、というのはこちらとしてはショックでした。個々の問題点も鮮明になってきました。そのいちいちについてはここでは述べません。報告書を参照してください。今後、この結果を出発点としてB群科目授業の改善をしてゆくつもりです。これは大学側の責任です。でももうひとつ大切なのは皆さんの姿勢です。「教養」は仕方なく単位をそろえるためだけに(と読み取れる回答もかなりありました)、という意識は間違いであることは理解してもらえたいと思います。ロクに授業にも出さなりのレポートを出して単位だけそろえる、というのがどんなにもつたないことか。皆さんの知的な人間とし



ホームページ (<http://z.kyoto-u.ac.jp/>)の「点検・評価」のページ)に掲載しています。

での成長のチャンスを見すみす逃しているのです。

ふたたび「平等」について

ここで最初の問題に戻ります。もし、皆さんが「日本の平等」理念の持ち主であったとするとちよつと具合が悪いのです。もしもすべての人間が生まれながらにそのままで同じ価値を持っているのであれば、誰かが努力してさらに自分の価値を高めるといふことはないですよ。これは本当の意味の「教育」といふ点からは困るのです。「教育」とは教育を受ける人間の「人間としての価値を高める」ことが目標なのですから。

学生・教職員みんなで京大の教育を盛り上げよう!

学生実行委員 吉安 亮介(総合人間学部2回生)

京都大学教育交流会は、「自由な学風」とされる京都大学の新しい教育のあり方や学生の学びについて、学生と教職員が一緒になって考えていこうとするプロジェクトです。現在4つのWG(ワーキンググループ)に分かれて活動をしています。以下、最近の活動を報告します。

大阪大学との合同イベント (WG3企画)

4月23日(土)(於・人間・環境学研究所地下大講義室)
 「京大らしい教育とは何か?」を考えるにあたり、「京大らしくない教育」、つまり「他大学の教育」を調査し比較することにより「京大らしい教育」を具体化しようと試みています。その一環として、阪大との合同イベントを開催します。イベント



阪大との合同イベントに向けて(WG3)

トでは、まず第1部で両大学の授業の雰囲気をつかんでもらうために、京大からは運動科学の小田伸午先生(高等教育研究開発推進センター)に、阪大からは物理の藤田佳孝先生(理学研究科)にミニ講義をして頂きます。どちらの先生の講義とも「実演」が持ち味の人気講義です。その後、第2部で京大・阪大の学生による討論の場を持ちます。お互いに刺激し合い、またこのイベントを通じて交流の輪が広がればと思います。(どうでもいいことですが、阪大では授業の開始にチャイムが鳴るそうです!)

ポケットゼミ「自主研究ゼミ」の開講(WG4企画)

このゼミでは、1回生のうちから実際に『研究』を我が身で体験してもらい、さまざまなことを学んでもらおうという試みです。研究のテーマは、「方言の分布」から「京都モデルを使った細胞のシミュレーション」まで、文系・理系分野を問わず何でもアリです! 完成した論文はWWWで公開することを予定し、特に優れた論文については学会誌に投稿することも検討しています。担当教員や上回生が研究のサポートをしますが、あくまで自分が考えて研究をすることを第一とします。また授業では研究の「達人」を呼んで、研究の仕方・研究に取り組み姿勢などをレクチャーしてもらいます。一回生は、是非参加してみてください!

その他の活動

【WG4企画】

2月には、社会で活躍している京大の卒業生をお招きし、現役学生に、社会の最先端の実情をふまえた教を飛ばしてもらいました。



卒業生と語る(WG4)

【WG1企画】

今春からKULASIS(全学共通教育教務情報システム)と連動したオフィスアワー検索システムが導入されます(オフィスアワーとは、学生が教員に研究内容や勉強や進路などについて相談できる時間のことです)。

【WG2企画】

京大の学生・教員の教育に対する意識調査を継続的に行うことを念頭において、2回生進級時のアンケート(案)を作成しました。この結果にもとづいた教員、学生へのインタビューも予定しています。

学生実行委員随時募集中!

担当 吉田 純

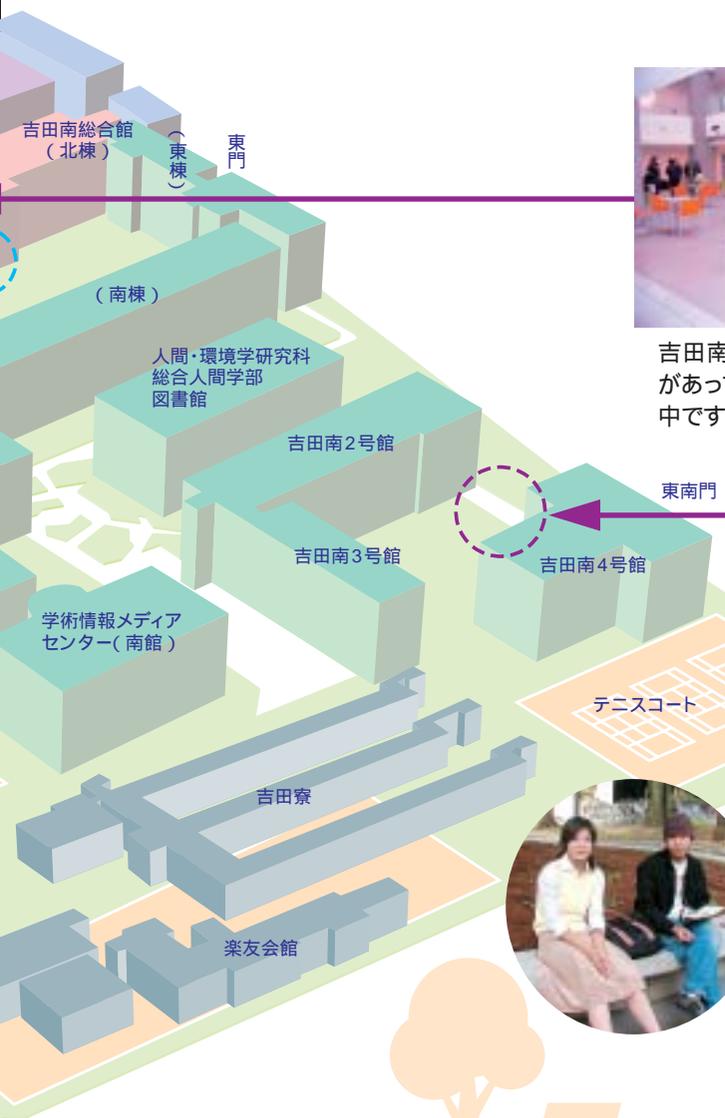
(高等教育研究開発推進センター教授)

(Email: koryu@socio.kyoto-u.ac.jp)

新入生大歓迎です!

吉田南構内で ゆったりしよう！

吉田南構内の工事がほとんど終わり、新しい校舎やいろいろなものができました。ここではそんな吉田南構内で「休める」所・憩いの空間を少し紹介したいと思います。お茶でももって空き時間にでも友達と談笑したりしてみましよう。



吉田南総合館北棟の中にはこのようなスペースがあって、休憩することができます。ただ、建物の中ですし、うるさくしないようにしましょう。



吉田南4号館の玄関から出ると大きな木があります。お昼休みなどはここで昼食を食べている人がたくさんいますね。ここは新しく工事をしたなどということはないですが、くつろぐにはもってこいの場所ですね。





吉田南1号館と総合人間学部棟との間には、こんな広場ができました。ベンチがあるので、授業のない時などに友達とお話したりすることもできます。春になり、暖かくなってきたのでこのあたりで読書などではどうでしょう。

吉田南構内にコンビニエンス・ストア ナチュラル・ローソンセレクト 京都大学店がオープンしました！



ナチュラル・ローソンセレクト(NLS)京都大学店は、昨年12月6日にオープンしました。他のコンビニとの違いは、減農薬のサラダや無添加のポテトチップスなど関東に展開しているナチュラル・ローソンの商品を取り扱っており、関西では現在店のみとなっています。

オススメの商品としては、491円のポテトチップスです。これが只今お客様より好評を頂いております。ポテトチップスに491円！と思われる方、是非お試しください。この他にも様々なナチュラル・ローソンの商品を取り揃えています。

NLS京都大学店では、多くのお客様にご来店いただき、また来たいと思ってもらえるよう、笑顔での対応を心がけております。

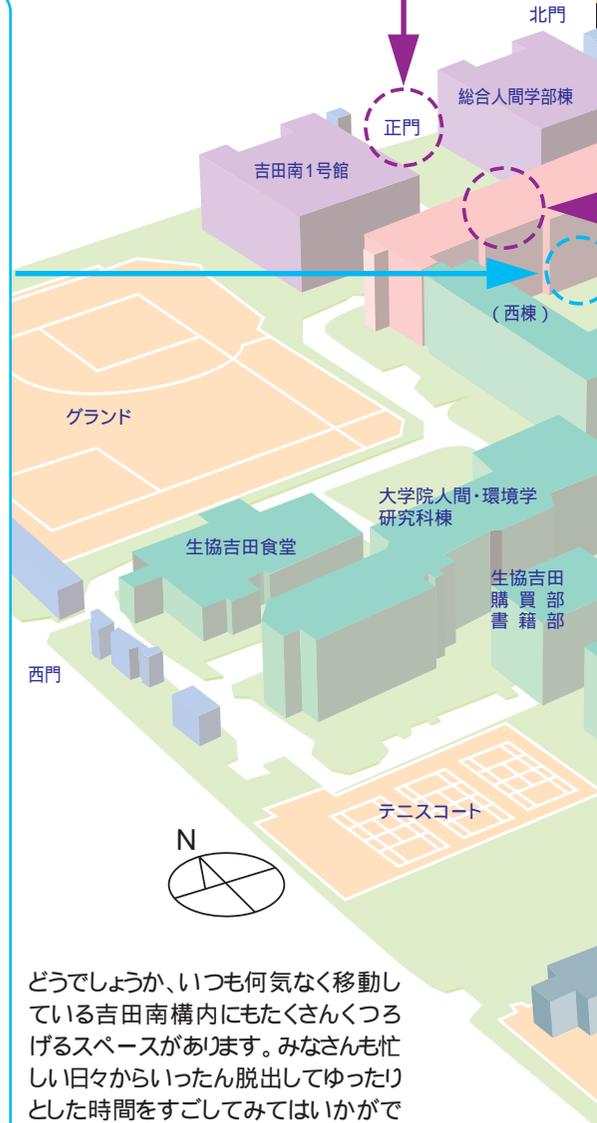
(店長 菊池 洋)

営業時間 7時00分～21時00分(定休期間:年末年始)

販売商品 食品、日用品、文具、雑誌等(ナチュラル・ローソンセレクトとして、環境保護のための商品、無添加商品等、環境に優しいコンビニをみます。)

カウンターサービス

- ・公共料金の代行収納(電気、ガス、水道、通信販売、クレジット等)
- ・DPE、コピー(カラーコピーを含む。)、FAX
- ・各種チケット販売
- ・郵便局機能(ポスト設置、切手・葉書・印紙の販売、ゆうパックの取扱い)
- ・ローソンATM(郵貯利用可)の設置
- ・マルチメディア端末:「Loppi」設置
- ・各種チケット販売等
- ・入学願書・大学資料等の取り寄せ
- ・公開講座等の申し込み・支払い
- ・受験料等の支払い
- ・国内航空券の予約取次ぎ業務



どうでしょうか、いつも何気なく移動している吉田南構内にもたくさんつるげるスペースがあります。みなさんも忙しい日々からいったん脱出してゆったりとした時間をすごしてみたいはいかがでしょうか？

KULASIS(クラシス - Kyoto University 's Liberal Arts Syllabus Information System -)とは

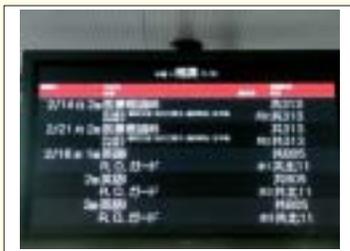
全学共通科目の情報をシステム化することにより、授業に関する情報がパソコン・携帯電話から検索できるなど学生サービスの充実を計ることを目的に開発されているシステムの名称です。

KULASIS(クラシス)で何ができるの？

KULASISの機能紹介 ————— <http://www.k.kyoto-u.ac.jp/>



WEB掲示板



電子掲示板(吉田南1号館)

シラバスを検索してみよう！

履修登録するうえでどのように科目を選べばいいのでしょうか？「履修の手引き」と「授業内容」の印刷物を読み合わせて自分の履修したい科目を選び出すのはたいへんな作業です。そこでKULASISでは、昨年度よりシラバスのWEB化を行いました。学内はもちろん学外からシラバスを検索することができますので、ぜひ試してみたいはいかがでしょうか？



シラバスの検索画面
(学外からはパスワードが必要)

科目名・曜講時
等いろんな条件
で検索が可能！



シラバス表示画面

WEB履修登録を行います！

今年度の後期履修登録よりWEBによる履修登録を計画しています。履修登録をWEB化することでこれまでであった科目コードの書き間違いによるエラーなどはなくなります。KULASISで受講したい科目を検索してそのまま履修登録を行うことや時間・場所も選ばずに履修登録ができることなどきっと卒業生が聞けばうらやむでしょう！ただ京都大学でも初めての試行なので開発側はプレッシャーに押しつぶされて夜も眠れない日々が続いているとか・・・



My 時間割

KULASISに関する意見等がありましたら京都大学高等教育開発推進機構のホームページの意見箱で入力してください。(URLは<http://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/>)。KULASISは学生から見たシステム開発を心掛けていますのでぜひご意見お待ちしております。

「教養」考

3

副機構長 林 哲介

前号のこの欄で「教養」というものは単に個々人の「ひととなり」だけに止まるのでなく、社会的な「働き」でなければならぬ」ということを書いた。つまり、人と人との関わりのなかで意味をもち働きとなるものだという事。人はみなそれぞれの「ひととなり」を身体にまとっている。原子が原子核のまわりに電子雲をまとっているようなものだ。原子同士がどんな結合や反応をするかは電子雲の性質、状態によって決まる。個々人が豊かな「ひととなり」を獲得する、それだけでは主観・客観の区別は曖昧であるが、それらの交わりを通して客観的な教養が醸成され、教養の社会的な意味が生まれる。「教養を育む」ということを考えるときに、このことを意識することが本質的なことだと思う。

今号で藤本孝先生は「知的な人間として生きるための条件」について述べられているが、そのなかでもとりわけ「歴史の文脈の中に自己を位置づけ、それによって自己を相対化することができる」、「世界を部分的ではな

く全体として見ることができるとは、ここで言っている教養の社会的働きに通じていると思う。社会との関係、世界との関係で自分を捉えること、すなわち個々人が互いに知的に生きる思想を確立することが目標となる。ここで敢えて「互いに」を挿入して強調している。「互いに知的に生きる」ことは必然的に、人の相互理解、共同、共生を目指すことになるからである。「相互理解、共同、共生」は「利己、競争、差別」と相対立する。「教養」は「競争」とは相容れないのである。

学術研究には、具体的な目的のある実学と、そうでないものがあるが、実学でないもの（虚学？）はつまるところ社会的教養の基盤である。教養の基盤は学問によって裏付けられなければならない脆弱である。私達が「学術的教養」と呼んでいるのはこのことを指し、学問・学術の人間・社会にとっての意味を問うことを通じて教養の基盤を形成しようという呼びかけなのである。

My Page機能とは？

全学共通科目の科目数は800科目 授業担当教員は1,500人という巨大な組織です。そして 休講や補講の掲示情報も年間2,000件を超えています。この情報を学内設置の電子掲示板でお知らせしていましたが 自分の関係する情報を見るためには かなりの時間や場所が拘束されます。そこで 昨年秋より 掲示板の内容がWEBで見ることができるようになりました。さらにIDとパスワードを入力することにより 自分の履修している科目の情報を学外からも 携帯電話でも見ることができます。これで家から休講情報がわかるので ゆっくりと朝寝坊もできるかも？

KULASIS

お知らせ

9/8(水)

【重要情報】外国語予備登録は9月24日より開始します

- ・学生呼出(1件)
- ・授業変更(1件)
- ・休講(2件)
- ・補講(1件)
- ・レポート(1件)

携帯電話お知らせ画面

外国語予備登録(抽選)システムは？

2年生以上の外国語(英・独・仏・中・露)は 講義に人数制限があり 履修登録の前に予備登録が必要です。KULASISにアクセスして 抽選を行ってください。受講したい講義があっても 早い者勝ちではありませんので ご注意ください!

スナップ写真大募集!!

キミの撮った写真が次号の表紙になるかも

「共通教育通信」では、スナップ写真を使って表紙を制作しています。日常の何気ない風景、最近興味があるもの、友達とのスナップなど何でもかまいません。みなさんがカメラ付き携帯電話(デジタルカメラでも可)で撮影した写真を下記のアドレスまでお送りください。

本紙に対するご意見、ご感想も同アドレスで受付けています。

京都大学共通教育推進部

E-mail : kouhou@k.kyoto-u.ac.jp

(TEL : 075-753-6509 FAX : 075-753-6691)

なお、お送りいただいた写真すべてを掲載できない場合がありますのであらかじめご了承ください。

著作権や肖像権の問題により掲載できないものもあります。著作権の確認、人物を撮る場合には掲載の承諾をもらってからお送りください。

表紙の写真紹介



- 1.2.12.13. 時計台前の橋付近
3. 留学生センター前
4. 法学部1回生撮影:下宿でくつろぐ友人を後ろから撮影しました。
- 5.6.7.10.14. 吉田南構内プロムナード
8. LAWSON京都大学店内
9. 本部構内正門前
11. ハウルの動く城(11月祭)

表紙に関する写真撮影にご協力いただきありがとうございました。



携帯電話等で
写真を撮る



撮った写真を
左記アドレスへ送信



あなたが撮った
写真が「共通教育通信」の
表紙に載るかも

次号は今秋刊行の予定です。

写真には、必ずメッセージ・
所属・学年(全て含めて50
文字以内)を添えてください。